

2. 事業の概要と成果

(1) プロジェクト目標の達成度	<p>対象地域すべての幼稚園・小学校の教師や親の能力強化・啓発およびインフラ整備を通じて、少数民族の子どもたちの幼稚園から小学校への円滑な移行を促し、学習環境の改善を目指す。</p> <p>3年事業の最終年となった本事業では、幼稚園および小学校の教師の能力強化のトレーニングや学校を支援する地域ネットワークづくりの活動を継続して企画・実施した。また、事業終了後も事業効果が継続し、近隣地域にも活動が普及することを可能とするため、教師間の学びあいガイドラインの普及を推進した。</p> <p>また、幼稚園および小学校3校の教室・トイレ・給水設備の建設および教室備品の支給、幼稚園および小学校への児童図書支給を通じて、教育環境を改善した。幼稚園・小学校の教師の能力強化に関しては、ほぼすべての成果指標において、目標値を100%以上達成することができた。</p>
(2) 事業内容	<p>1. <u>幼稚園・小学校の教師の能力強化</u> (参考資料1. 教師トレーニングリスト、2. 教育専門家派遣リスト)</p> <p>コアチームの教師が一般の教師たちへの技術普及を促進し、より多くの教室で授業の質が改善できるよう、コアチームの指導力を強化した。さらに、事業終了後も対象地域や近隣の教育訓練局が教師の能力向上を後押しできるよう、彼らの理解と技術力の強化にも注力した。</p> <p>1. 1 年間計画ワークショップ(対象:幼稚園・小学校) 2018年11月下旬、プロジェクトの年間計画ワークショップを3日間行い、対象2省の教師や教育訓練局職員を中心とする29人が参加した。2年次の成果と課題を考察後、3年次に想定する活動や目標指標について理解を深めた上で、各省で実施する活動の具体的な予定やモニタリング方法を議論した。関係者が事業計画に主導的に関わることで、事業に対するオーナーシップが高まった。</p> <p>1. 2 教師間の学びあいトレーニング(対象:小学校) 2018年12月、日本人専門家を招聘した教師間の学びあいトレーニングをライチャウ省で5日間実施し、対象2省のコアチームを中心とした48人が参加した。トレーニングでは、国語と算数の2教室に分かれて授業観察を行い、子どもたちの学習の様子や教師の授業展開を撮影しつつ、気になる点を書き留める作業を行った。次に、撮影したビデオや写真を編集し、子どもの学びの様子、困難が見られた点、問題の背景、改善点などをグループで発表し、参加者全体でも議論を行った。日本人専門家は、観察した授業の分析や改善の方法を国内外の事例を踏まえて紹介した。</p> <p>2019年4月には、JICAの支援で2006年に教師間の学びあいを導入したバクザン省に日本人専門家を招聘し、先行事例から学ぶトレーニングを4日間実施した。対象2省から選抜されたコアチームメンバー16人が参加し、現地の小学校2校における教師間の学び合いを観察後、日本人専門家の助言を受けた。また、教師間の学び合いに長年携わってきたバクザン省およびバクザン市の教育訓練局職員や学校副校長から経験談を聞き、対象2省における今後の行動計画も策定した(2019年2月に変更報告書提出)。</p>

9月には、ライチャウ省とコントゥム省のコアチームを対象としたトレーニングを各省ごとに開催した(2019年2月に変更報告書提出)。参加者は各省内の全郡の教育訓練局職員や教師で、ライチャウ省では42人、コントゥム省では36人が参加した。当初はベトナム人専門家を招聘する予定であったが、学校と専門家との調整が付かず、コアチームや当団体のスタッフが中心となって2省全域における普及を図った。

各校における実地研修の1回目は、2019年1月にコントゥム省、3月にライチャウ省で、2回目は9月に各省にて実施した。ベトナム人専門家によれば、教師間の学びあいに対する学校教師や教育訓練局職員の姿勢や基本的技術は2年次に比べ改善し、事業終了後も活動を続けるにあたり指導的役割を果たす人材も育ってきている。一方、行政や校長らの技術的理解や積極的関与が継続することが、今後の成長の必要条件になるとの指摘もなされた。

1.3 児童参加型授業トレーニング(対象:小学校)

2019年2月にコントゥム省のコアチームを対象に、3月にライチャウおよびコントゥム両省のコアチームを対象に、それぞれ4日間ずつ実施した(開催地と期間および参加者に関し、2019年2月に変更報告書提出)。これらのトレーニングには、それぞれ32人と44人が参加した。コントゥム省でのトレーニングでは、児童参加型授業を実践する手法を学び、授業計画を作成した。両省を対象にハノイで行ったトレーニングでは、2019年9月開始の新年度から導入される新たなカリキュラムに沿った、児童参加型授業のあり方について学んだ。

さらに、事業後の持続発展性を確実にするため、事業効果の継続・拡大を目的とした追加トレーニングを実施した。コントゥム省で6月、ライチャウ省で10月、コアチーム対象に実施し、それぞれ38人、37人が参加した(2019年6月に変更報告書提出)。

各校における実地研修は、2019年3月までに基幹校6校で開催した。さらに、ライチャウ省では4月から5月にかけて、コントゥム省では10月に続けて実施した。これらの実地研修により、先に実施したコアチーム向けの研修内容を各校の教師も習得した。

1.4 ベトナム語教育トレーニング(対象:幼稚園、小学校)

2019年3月にライチャウ省およびコントゥム省の小学校各3校・幼稚園3園で、5月にはライチャウ省の幼稚園3園で3日間のトレーニングを実施した。幼稚園対象のトレーニングには、ライチャウ省で15人、コントゥム省では62人の教師や教育訓練局職員が参加。また、小学校対象のトレーニングには、ライチャウ省で110人、コントゥム省で84人が参加した(2019年2月に変更報告書提出)。

1.5 カリキュラム調整ワークショップ(対象:小学校)

ライチャウ省で2019年5月に、コントゥム省で10月に実施し、それぞれ32人と52人が参加した。今年度から新たなカリキュラムが導入されたため、その内容をより分かりやすく、各地域の文化や伝統、子どもたちの能力に合わせて教える方法について、教育訓練局の職員と一緒に教師らが議論した。

1. 6 読書推進トレーニング(対象:ライチャウ省小学校)
ライチャウ省では第2年次、当初の予定どおりには読書推進活動が進んでいなかった学校が一部見受けられたため、事業期間後も支給した図書の有効活用と維持管理されるよう、2019年5月にトレーニングを実施した(2019年6月に変更報告提出)。学校の教師や教育訓練局職員ら45人が参加した。

2. 教師間の学びあいツールの作成

2. 1 教師間の学びあいガイドラインの作成

教師間の学びあいのガイドラインを2019年10月に完成させ、2,700冊を印刷した。内容は2年次までの草案を3年次でさらに改定し、教師や教育訓練局職員など教師間の学びあいの実務者が日々活用できるよう、以下の二部構成とした。

<ガイドラインの構成>

1章：教師間の学びあいの学びの質向上への有効性

1. 教師間の学びあいの概要

2. 教師間の学びあいを効果的に行うための要素

2章：教師間の学びあいを効果的に実施するために必要な技術

1. 公開授業の準備

2. 公開授業の実施およびその観察

3. 観察後の考察的議論

4. 教師間の学びあい後のフォローアップ

本ガイドラインは、対象省の学校や教育訓練局に加えて、他地域の学校・教育訓練局、教育訓練省や教育研究機関へも配布した。支給後は、事業終了後も対象地域における活動の継続・発展と他地域への普及のために活用している。

2. 2 教師間の学びあい拡大ワークショップ

ライチャウ省では2019年4月、コントゥム省では同年9月に実施し、教師や教育訓練局職員らが各省で32人、69人参加した。教師間の学びあいの活動を普及するため、これまでの取り組みやその成果、課題を近隣地域に紹介した。

2. 3 事業成果確認ワークショップ

2019年10月にハノイにて開催し、3年間事業に携わった日本人専門家や対象地域におけるコアチームの代表者らが事業の成果や学びを発表した。また、教師間の学びあいガイドラインの概要と活用方法について紹介した。在ベトナム日本国大使館や教育訓練省、国立の教育研究機関や他NGO、メディアなどを含め、66人が参加した。

3. 学校を支援する地域ネットワークづくり

3. 1 地域教育推進ワークショップ(対象:幼稚園、小学校)

対象2省で2019年5月に開催し、ライチャウ省ではのべ120人、コントゥム省ではのべ196人の幼稚園および小学校の教師、保護者、地域のリーダーらが参加した。幼稚園から小学校へのスムーズな進学が可能となるよう、幼稚園と小学校の連携強化、子どもや保護者への支援強化など、各地域における課題を踏まえた行動計画を策定した。

4. 子どもにやさしい教育環境の整備

4. 1 教室建設および教室備品の支給(対象:幼稚園、小学校)

	<p>コントゥム省コンプロン郡ダクチュン幼稚園2教室の建設は2018年12月に着工し、2019年4月に完成した。ライチャウ省では地方行政からの建設認可に時間がかかり、シンホー郡カンティ2幼稚園および同郡ナムカン小学校の着工は5月となった。カンティ2幼稚園は、排水溝と校庭整備を追加で行い、10月にすべて完成した（2019年8月に変更報告書提出）。ナムカン小学校の建設も10月に完成。各校とも教室備品は9月に支給した。</p> <p>4. 2 衛生・給水設備の設置(対象:幼稚園、小学校)</p> <p>コントゥム省コンプロン郡ダクチュン幼稚園で2019年4月、新しい男女別トイレと給水設備、調理室・食堂が完成した。ライチャウ省シンホー郡ナムカン小学校では、10月に男女別トイレと給水設備の工事が完成した。ライチャウ省シンホー郡カンティ2幼稚園では、給水タンクおよび調理室・食堂が10月に完成した。</p> <p>4. 3 図書の支給(対象:幼稚園、小学校)</p> <p>コントゥム省では2019年4月までに小学校6校へ、ライチャウ省では5月の読書推進トレーニング終了後に小学校5校へ児童図書を支給した。しかし、幼稚園も含め図書不足が依然深刻であったことから、10月に幼稚園10園および小学校11校に追加支給を行った（2019年10月に変更報告書提出）。</p>
(3) 達成された成果	<p>直接裨益者数：6,115人（対象9コムーンの幼稚園・小学校に通う子ども、幼稚園・小学校教師、教育訓練局職員、教育推進委員会に参加する保護者を含む地域住民）</p> <p>間接裨益者数：26,877人（対象9コムーンの全人口）</p> <p>1) 幼稚園・小学校の教師の能力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師間の学びあい公開授業の実施回数： 各基幹小学校でライチャウ省は平均7回（100%達成）、コントゥム省は平均11回（157%達成）実施した。 教師間の学びあいの質を向上させた教師の割合： コアチームメンバーの100%が、授業観察後の教師間での議論で、子どもの学びについて適切に議論を進行することができるようになった（100%達成）。 授業内容や子どもの学びについて積極的に意見交換をするようになった小学校教師は、ライチャウ省で93%（目標値に対して103%達成）、コントゥム省で91%（101%達成）。 子どもが授業に参加する機会を増やした教師の割合： 対象2省の小学校教師の100%が、グループ学習やペア学習など授業での子どもの参加機会を増やした（111%達成）。 ベトナム語授業の内容を改善した教師の割合： ベトナム語授業を少数民族の子どもに適した内容に改善した幼稚園・小学校教師は、ライチャウ省で91%（101%達成）、コントゥム省で96%（107%達成）。 ベトナム語授業の中で週に3冊以上の児童用図書の読み聞かせを行った幼稚園教師は、ライチャウ省で93%（93%達成）、コントゥム省で100%（100%達成）。 読書推進活動を実施した学校数： 子どもを中心とする読書推進活動を実施した小学校は、対象2省の基幹校および分校の100%（100%達成）。 カリキュラムを調整した小学校教師の割合： ベトナム語習得に困難を抱える少数民族の児童の現状にあわせ

	<p>て、全国統一カリキュラム内容を調整した小学校の1・2年生担当教師は、ライチャウ省で91%(91%)、コントゥム省で96%(96%)。</p> <p>2) 教師間の学び合いツールの完成・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> 「教師間の学び合い」の実践的ガイドラインおよびビデオ：教師間の学び合いの実践的ガイドラインを完成させ、2,700部を印刷した。 <p>対象地域の全小学校や教育訓練局、事業対象地域外の教育訓練局や教育研究機関・訓練教育省などにも同ガイドラインを配布。事業成果確認ワークショップで活用方法を紹介した。なお、事例紹介ビデオはプライバシーの観点から、同団体内で管理し、今後他事業で実施する小学校対象のトレーニングなどで使用することとした。</p> <p>3) 学校を支援する地域ネットワークづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育推進活動を行った委員会メンバー数：子どもの教育環境の向上に向けた活動を各地で展開した教師や保護者からなる教育推進委員会は、対象2省で341人(103%達成)。 教育推進活動を行ったコミューン数：教師や保護者からなる教育推進委員会が子どもの教育環境の向上に向けた活動を展開した地域は、対象2省で9コミューン(100%達成)。 <p>4) 子どもにやさしい教育環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全な教室で授業を受ける子どもの数：126人(92%達成)。申請当初は47人の子どもが増加することを見込んでいたが、結果は39人の増加に留まったため。 学校で適切な衛生設備を使う子どもの数：126人(92%達成)。 学校図書を活用する子どもの割合：週に1冊以上の児童用図書を読んだ小学校児童数は、ライチャウ省は100%(100%達成)、コントゥム省は97%(97%達成)。 <p>上記の成果は、「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標4、ターゲット4.1、4.2の達成に寄与する。</p>
(4) 持続発展性	<p>当事業では、事業終了後も効果が継続して維持されるよう、次の点に配慮して事業を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 教育訓練局による近隣地域への活動モデルの展開 第3年次においては、対象省や郡の教育訓練局職員が中心となり、同事業で導入した教師間の学び合い、児童参加型授業等の活動が近隣の他地域でも展開されるよう、トレーニングを実施した。各地域におけるモデル校の選定や、教育訓練局職員が定期的にモニタリングすることで質的な向上を測るなど、普及拡大についての行動計画が策定され、遂行されている。当団体は、こうした行動計画の改善に向けた助言を行った。 教師間の学び合いの実践的ガイドラインの配布

コアメンバーの人事異動によって対象各校で教師間の学びあいを指導する人物がいなくなり、学びあいの体制や質が維持されなくなるリスクを防ぐため、教師間の学びあいの実践的ガイドラインを作成。これを対象校および他地域の学校や教育訓練局などに支給した。教師らは、同ガイドラインを参照しながら活動を継続することができる。同ガイドラインは教育訓練省や教育研究機関にも配布しており、全国レベルでの活用が期待される。

3. 教育環境の維持

当事業で支援した教室および衛生給水設備、教室備品の維持管理は、学校およびコミュニーンと郡の人民委員会が担うことを、施設の引き渡し時に書面にて署名を取り交わした。日常的な維持や軽微な修繕は学校が担い、各校の一定予算枠を超える規模の修繕には、人民委員会が対応することとなる。衛生給水設備の維持管理については、当事業終了後も対象地域における地域開発支援を継続するプラン・インターナショナル・ベトナムが啓蒙活動やモニタリングを行う。さらに、支給した図書の維持管理については、教師トレーニングを通して、各校の教師に指導した。